



巻頭記事 35周年記念式典開催にあたり

鳥取県西部中小企業青年中央会
35周年記念式典・祝賀会開催

35周年記念事業イベント
白ねぎ料理認定店料理コンテスト&
ご当地料理発表会

35周年記念協賛ゴルフコンペ

連載記事 **ススメマスイ!**

特集 業あり西部の躍動人

納得したものを自信をもって
（株）ワタナベ 松本 冬竹

ショーバイ・商売
中本 高夫OB（株）ラポールエステート
（山陰PRE研究会）

行列のできる法律相談所
日本代協認定保険代理士 竹谷 友成

中央会をふりかえって… 山本 徹

いわせてごしない! ~専務理事編~

発行人 / 鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 増井 幸一
編集責任者 / 担当 副会長 河津 慎二 制作・編集 35期広報委員会 / 委員長 小川 敦弘 印刷所 / 東京印刷(株)

~ 35周年記念式典開催にあたり ~



鳥取県西部中小企業青年中央会
会長 増井 幸一

35周年記念ゴルフコンペ・白ネギ料理コンテスト事業並びに式典・懇親会に大変多くのOBの皆様方、御来賓の皆様方にお越しいただき、盛大に35周年を迎えることができました。皆様方の多大なる御協力により達成できた内容であったと思います。本当にありがとうございました。

発足当時から会の活動と思いを改めて皆様にご覧いただきました。このことで、30周年を経験していない半数以上の現役会員も内からの意識統一ができたのではないかと考えています。

そして、35周年記念事業の取り組みが、県や市町村・JAの皆様や地域の皆様方に喜ばれ、報道機関にも取り上げていただき、町で出会えばまた呼んでくださいとお声掛けもいただき、本当にうれしい記念事業にすることができました。

思えば、34期より検討し、やりたい事は沢山ある

のに予算がなく、どうすれば35周年を会員の為、会員企業の為、地域の経済のためになることができるのかと思案の連続でありました。そんな中、会員皆の努力により達成できた事は、アクションリーダーへのステージに大きく上がっていく内容であったと思います。「躍動」という35周年のテーマそのものであると思います。誰かが腰を上げなければできないこと、それは、行政や一個団体ではできないことも、私たち青年中央会ならできる。改めて、そのように感じた活動でありました。何をしているのかを知っていただけたと思うことや、喜んでもらった事、声を掛けてもらえることを思うと自信につながってきます。その内面から湧き出る良い思いが、また違う新たな挑戦へと躍動人を向かわせるのだと思います。



35周年事業実行委員会
実行委員長 岩田 剛

「これからも、真のアクションリーダーとなるべく、より一層、躍動し続けていくことをここに決意します。」

記念式典での宮崎大介会員の決意表明。とても心が熱く、胸いっぱい感動を覚えました。

来賓15名、OB会員55名の皆さまに花を添えていただき、4月16日(金)の記念式典・祝賀会が盛大に開催できましたこと、感謝申し上げます。

4月11日(日)の「白ネギ料理認定店料理コンテスト・ご当地料理発表会」。あいにくの雨の中でしたが、会員のたくさんの笑顔が印象的でした。

記念事業を通じて感じたことは、目立たないけれども裏方として一生懸命活動される会員が本当にたくさんいるという事です。一人の力は限られているもので、その力が重なり合った時こそ、会として大きな力が出る時であると実感いたしました。

昨年9月、実行委員長に任命いただき、あっという間の8ヶ月でした。皆さんに支えていただき、ようやくここまで出来ました。本当にありがとうございました。

残すのは、記念誌の作成と6月のファイナルイベントです。最後までどうぞ宜しくお願い致します。

全会員で取り組んだ35周年事業



地域ビジョン委員会



政治行政委員会



ビジネス委員会



自然文化発掘委員会



広報委員会



総務委員会

鳥取県西部中小企業青年中央会35周年記念式典・祝賀会開催



平成22年4月16日(金) 米子全日空ホテルにて、鳥取県西部中小企業青年中央会 35周年記念式典・祝賀会が開催された。

開会に先立ち岩田実行委員長より開会宣言があり、式典が始まった。

次に、第35期の増井会長より35期のテーマとスローガンについて説明があり、来賓やOBの方々へのお礼をのべられた。

「自ら考え、自ら進んで行動していくこと。その合言葉が『躍動』であると思う。中央会も35歳となった。今後も経済人の学びの場となることを約束する」と力強く締めくくられた。

再び岩田実行委員長より趣旨説明があり、「現会員104名の内60名は30周年を体験していない。本日は中央会の歴史の確認と、30期からの振り返り、これからの未来に向かってのあるべき姿を共通の認識としてもらいたい」と述べ、DVDを上映した。

DVDではまず30周年の際の映像を放映し、永瀬正治OBや中村昌哲OBが会に対する想いを述べられ、過去に行われた代表的

な事業を紹介した。

また、鳥取大学医学部移転問題では当時、第21期阿部信行会長の御言葉をいただき、偉大な事業の一端に触れる事ができた。



その後、第16期秦野一憲会長時代の「どうする山陰」の紹介があり、「今後の中央会に期待すること」として、第27期岩田慎介会長から期待を込めた激励をいただき、直接お話しをしたことのない会員も気持ちを新たにしたいと思う。その中で「思い切っただけでもやろうや」「卒業の年が来るまで悔いのないように、遠慮することなく『さすが中央会出身の人間だな』と呼ばれるようになってほしい」と締めくくられた。

そして、過去5年間の歴代会長の御言葉をいただき、それぞれの会長ごとの想いを受け、懐かしくもあり、また襟を正される思いもした。



最後に、現在35歳である宮崎大介会員から決意表明があり、「これからも真のアクションリーダーとなるべく、より一層躍動し続けてい

くことを宣言する」と締め、記念式典を閉会した。



場所をかえ、祝賀会が開催された。

開会に先立ち、増井会長より35期の残りの活動の紹介があり、「企業が発展できるようなコラボレーションができればと考えている」と締めくくられた。

続く来賓挨拶のあと宇佐見OB会長より乾杯のご発声をいただき盛大に祝賀会が開催された。

来賓やOBと現会員の交流も活発に進み、祝賀会最大のイベントであるTSCバンドの演奏が行われた。

浜田一哉OBをリーダーに構成されたTSCバンドは少ない練習回数を感じさせない演奏で、大音量を苦とみせずみな聞き入っていた。とくに山根県会長渾身の歌詞は、我々にやる気をみなぎらせるに十分な熱気を持っていた。

盛大に開催された祝賀会もいよいよ中締めとなり、鳥取県団体中央会米子支所長足立真二氏が謙遜されながらも一本で締められ、祝賀会は盛大なうちに閉会した。

(記事:桑本)

35周年記念事業イベント

白ねぎ料理認定店料理コンテスト&ご当地料理発表会

平成22年4月11日(日) アスパル日吉津にて、鳥取県西部中小企業青年中央会35周年記念事業イベントの「白ねぎ料理認定店料理コンテスト&ご当地料理発表会」が開催された。当日は朝から風が寒く小雨の降る天候だったが、コンテストを盛り上げるため各委員会で販売ブースを出し、お馴染みのマグロ・かにバーガー、金魚すくい、ラーメン、朝どれ鮮魚、メンバーで山から取ってきた山菜、ホルモン焼きそばなどが用意された。ヨネギーズ、トリピー、とりモーたち鳥取県のゆるキャラ6体も会員が順番に中に入り会場を盛り上げていた。

9時半からコンテスト会場では増井会長の挨拶に始まり、来賓の方々の挨拶が続いた後にコンテストの説明があり開会宣言が行われた。一般来場者は試食チケットを購入して、



鳥取県西部中小企業青年中央会

6ブースある各店独自の白ねぎ料理を食べ比べてお気に入りの店名を投票していた。

会場が落ち着いた頃、米子がいな太鼓保存会友連による勇壮な太鼓が披露されコンテストを盛り上げていた。



午後になり、多忙の中を駆けつけていただいた平井鳥取県知事の白ねぎ、ご当地料理の魅力についての挨拶に続き、表彰式が行われた。最初に準グランプリが発表され、「こうりん坊、白ねぎ南蛮タルタルソースかけ」が選ばれた。続いてグランプリは「炉端かば、ねぎロール」が選ばれた。今後この「ねぎロー



ル」は東京、山陰の炉端かばの全店舗で新メニューとして提供されるのでぜひ皆様ご賞味いただきたい。今回この白ねぎコンテストには認定30店舗中18店舗が応募があり、審査を通った6店舗が出品した。本日出店の他店舗は弓ヶ浜荘「白葱寿司」、麵匠ながた「白ねぎうどん」、とらや「ねぎしゃぶ」、米子全日空ホテル「鯖のねぎ味噌朴葉焼」の4店舗。今後、白ねぎをご当地食材として地元の認知度を高め、広めていくための1日であった。

(記事:景山)





35周年記念協賛ゴルフコンペ

平成22年3月27日(土)グリーンパーク大山GCにて『35周年記念協賛ゴルフコンペ』が現役・OB会その他関係団体含めて92名が参加し、開催された。心配されていた天気も前日までの雨が嘘のような晴天でおこなわれました。

申し遅れました、三度の飯よりゴルフが好きな(笑)、35周年ゴルフコンペの世話人の手島です。



今回おこなわれたゴルフコンペですが、多くの協賛品・協賛金をいただいたおかげで参加賞を除



切に使わせていただきます。誠にありがとうございました。

そして、栄えある優勝は現役会員の高塚康治会員、2位に中央会のコンペといえば、手ぶらでは帰らない和田秋男OB、3位に境港JCの高

いて、景品数35個！約3人に1つ景品が当たるように用意ができて、しかも皆様のご好意の協賛金がなんと！20万円以上集まりました。この協賛金は35周年の事業に大



尾さんと現役・OB・他団体がベスト3を分けた結果でした。おめでとうございます。ゴルフコンペ終了後の懇親会も多数のご参加をいただき、盛大に開催されました。ありがとうございました。

最後に、OBの皆さんや他団体の方を交えてのゴルフコンペって楽しくて良いものですね、次回は現役OB対抗ゴルフコンペなど企画出来たら良いなって思います。

その時はまた多数のご参加をお願いいたします。(記事:手島ゴルフ部長)

ショーバイ・商売

～自分の人生を仕事に懸けてみよう！～

中本高夫OB (株式会社ラポールエステート 山陰PRE研究会 (Public Real Estate))

今回は、代表取締役 ラポールエステートの中本高夫OB取材してきました。

～どうすれば市民が行政を

支えることができるのか～

今回は、ラポールエステートの中本高夫OBを訪ね、今後、全国的に広まる機運の「公共財の証券化」についてお話を伺った。

「公共財の証券化」とは公的不動産の有効活用を目的とし、例えば行政保有の老朽化した空室の目立つ市営住宅を複数の出資者(市民)が買い取り、改修して行政へ貸し出し賃貸料を得る仕組みである。予算上、改修等が厳しい行政にとって非常に有効な策と考えられ、国レベルでも検討されている。『証券化という道具』を使



い、有効活用されなくなった公共財を市民の手に移し(戻し)、市民の責任によって公共財を生まれ変わらせたい。この考えは自身の携わる不動産を通じて地域貢献を考えた結果でもあり現在、中国財務局へ登録し証券化の準備を終え、「山陰PRE研究所」を設立し両県で講演活動を行い、さらには全国で同様の活動を行う組織・団体とのネットワーク作りには奔走中である。今後も次世代を見据えた市民参加型の「公共財の証券化」の提言を数多くしていきたいと締め括られた。

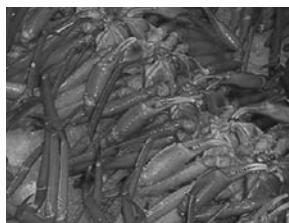
(記事:稲田)



業あり 西部の躍動人

納得したものを自信をもって

(株)ワタナベ 松本 冬竹 (中央会会員)



弊社(株)ワタナベと(株)ワタナベグループ各社は、水産加工業、水産物小売業、建設業、廃棄物の収集運搬及び食品廃棄物の再生利用事業を営んでおります。

今回は、その中で旬かのにの渡辺を皆様にご紹介させていただきます。(旬かのにの渡辺は、境港で水揚げ

された松葉がに、紅ずわいがにを中心とした、かにの専門店です。

当店では、20年以上の経験を持つ店長が、市場で競り落したものを1枚1枚吟味して、納得したものを自信を持って販売させていたっており、この時期は、境港で水揚げされた紅ずわいがにをお楽しみいただけます。境港へお越しの際は、ぜひお立ち寄り下さい。皆様のお越しを従業員一同お待ち申し上げます。



お問合せ かにの渡辺さかなセンター店 ☎ 47-2111 (夢みなとタワー横、境港さかなセンター内)

行列のできる 法律相談所

『保険のお話』

日本代協認定保険代理士 竹谷 友成 (中央会会員)

保険に入ったからといって、事故にあわなくてなるワケでもなく、死なない・病にならないというものでもありません。が、そもそも保険とは何でしょう？

保険というものは結局、人生で直面しうるトラブル(戦闘)によって発生する経済的損失を補う(敵を倒す)為の装備に過ぎないと思うのです。その為、万人にベストな保険は存在しません。しかし、その人にベターな保険(装備)を選ぶ事は出来ると思います。

例えるなら『値段は安いけれど、使い方や使うのにどんな技術や経験を要するかは教えてくれず、かつ自力で装備を選ぶしかない、まるで某玄人志向(笑)のようなお店。』

『値段は相応だけど、使い方は教えてくれて、かつ技術や経験に応じて装備を選んでくれて、かつダメ出し(笑)、までしてくれるお店。』

あなたなら前者と後者、どちらで装備を整えますか？

どんな保険選びも同じ事です。保険(装備)を選ぶ際は、まずお店を選びましょう。

ススメアスイ!



陸上競技の400mリレーは、バトンを渡すときのうまさで勝敗に大きく影響するといわれます。

渡す側は、最後まで全力で走って相手の構えた手にバトンを大切に持っていくこと、受け取る側は、渡す側のスピードになるようロケットスタートしてバトンを受け取りやすいように大きく手を広げる。受け取ったあとは、猛ダッシュという具合です。

バトンゾーンの中で並走する姿は、まさに今の時期の青年中央会であるといえます。躍動人のロケットスタートも「業」わざ次第だと思います。そして、チームの合言葉は「躍動」です^^ (会長 増井幸一)

中央会をふりかえって… 山本 徹 会員

卒会までいよいよカウントダウンとなりました。

多賀OB(中学、高校のバスケット部の先輩)に、「1年間でいいから」と無理やり入会させられてから7年が経ちました。忙しい時期が決まっている業種のため6月から11月まではすべて出席、12月から5月まではすべて欠席という期間が3年間くらいあり、当時の委員長にはご迷惑をお掛けしました。

楽しかったことも沢山ありました。くだらないことも沢山ありました。訳のわからないことも沢山ありました。中央会が「大人の会」かどうかかわからない内に卒会するのは残念ですが・・・(続きは卒会寄稿文で)。

長かったような短かったような7年間、ありがとうございました。



「ゆわせてごひなひ!」～専務理事編～

中央会に入会して早11年。その間に私が気づいた『中央会活動を10倍楽しくする方法』を今回こっそり?お教えします。

その1 「積極的に自分の方からOB先輩や現役会員に声をかける」⇒これが一番大事です。委員会や例会、OB先輩との交流会に出席し続けていればどんどん可能になります。自分から少しでも話しかけていくことで逆に声をかけて貰うことも増えて行きます。お酒の入る席で実践すれば更に話も盛り上がり、より効果的だと思います。

その2 「会員手帳をフル活用する」⇒新入会員であれば、出来るだけ早く会員手帳の中身を覚えることです。手帳には現役会員の情報のみならずOB先輩の情報も入っていることがポイントです。例えば仕事を依頼する時、又は家族に何かしら相談された時、こういう仕事を頼むには〇〇会員がいるな、とか△△OBの会社がぴったりだな、と連想が出来ればしめたものです。

その3 「委員長という役職をフル活用する」⇒委員長は何かと大変なイメージがありますが、一度は必ず経験してほしいと思います。委員長であれば自分で委員会を上げることが出来ますし、例会も自分の考えを入れることによって魅力ある例会を作ることが可能です。そして一年間やり終えた時、自分自身が一番成長しています。

まだまだ他にもあります。続きをお聞きになりたい方はぜひ声をかけて見て下さい。(記事:渡辺専務理事)

ご結婚おめでとうございます



遠藤 享 会員

(挙式日)平成22年4月3日
(入籍日も同じ)

(挙式場所)出雲大社北島国造館

末永くお幸せに

4月度委員会報告

地域ビジョン委員会

平成22年4月4日(日)於:湊山公園 出席者/13名
議題/・4月イベントについて

政治行政委員会

平成22年4月6日(火)於:レストランぶどうの木 出席者/10名
議題/・3月担当例会反省について
・6月6日35周年記念事業ファイナルについて

ビジネス委員会

平成22年4月7日(水)於:クーリエ宅配サービス 出席者/11名
議題/・会員企業紹介と意見交換会 ・5月担当例会について
・会員企業発展手法について

自然文化発掘委員会

平成22年4月5日(月)於:米子食品会館 出席者/11名
議題/・2歴史探訪ツアー報告について ・35周年打合せについて

編集後記

今期で二度目の広報系委員会ですが原稿を書くのが苦手で、いつも四苦八苦しています。もともと文章を書くのが得意でなく、その上多くの人の目に触れると思うと変なものを出せないということで書きあげた原稿を何度も見直します。それでもなかなか納得できずに遅い時間に自宅で見直していると、妻から熱い目線ならぬ白い目線で刺されたりします。これも広報委員会ならではの体験なのですが、何せ文章を書くのが上手くなりたいたいものです。(記事:濱田)

広報委員会

平成22年4月6日(火)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/15名
議題/・ハンサムについて ・ホームページについて
・35周年記念誌について ・中央会TV番組について
・委員会報告/卒会寄稿文集について ・会員名簿について
・6月担当例会について

総務委員会

平成22年4月5日(月)於:米子ニューアーバンホテル 出席者/16名
議題/・35周年事業(式典・祝賀会)について
・会員拡大について
・新入会員オリエンテーションについて

5月役員会報告

5月役員会が平成22年5月6日(木)、米子食品会館にて開催されました。

当日の主な議題は以下の通りです。

- ・4月例会報告の件
- ・5月例会開催の件
- ・その他

※なお、詳細につきましては各委員長までご参照ください。

5月例会のご案内

と き:平成22年5月21日(金) 18:45~
と ころ:米子市福祉保健総合センターふれあいの里 1階大会議室
内 容:「企業再生支援とビジネスマッチング」
担 当:35期新入会員、ビジネス委員会